

前回は予想外にマイナスも、今回は回復が期待される～米小売売上高

2019年4月15日(月)

18日に3月の米小売売上高が発表されます。
米国のGDPの約7割を占める個人消費動向をまともに表すこともあって
注目度が本来は高い同指標。
年末から年始にかけての米国の連邦政府一部閉鎖の中で
発表元の商務省が閉鎖されていたため、2月中旬に発表された12月分から
今月1日に発表された2月分まで、発表遅れが続いてきたこともあり
若干反応が鈍い指標となっていました。
今回からはようやく通常通りの発表に。
数字の速報性は指標結果の相場への影響に関係しますので
今回からはより注意が必要です。

前回2月分の数字は予想外にマイナスとなりました。
(総合の事前予想+0.2%に対して-0.2%、自動車除くコア予想+0.3%に対して-0.4%)
同月の雇用統計、非農業部門雇用者数が前月比わずかに+3.3万人(速報時点では+2.0万人)と弱かったこともあり
堅調であった雇用市場とそれに支えられる個人消費という
米国経済を支える流れに対する警戒感も一部で出ていました。

しかし、非農業部門雇用者数は3月分で回復。
小売売上高も今回の回復が期待されるどころです。
ただ、雇用統計の中で雇用者数と並んで個人消費に関係する平均時給が弱かったこともあり
若干の警戒感が残る状況。
今回の小売売上高がしっかりと回復を見せると個人消費減退懸念が払しょくされそうです。
前回の数字の内訳をみると
特に弱かったのが建設資材。食品、電気製品なども弱い数字でした。

2月の雇用者数が弱かった大きな要因の一つと言われる
1月末からの歴史的な寒波などによる2月の米平均気温の低さの影響が
建設資材などの弱い数字に出ていた可能性があり、
そうした意味では今回は改善の見込みがあります。

□
事前の予想は前月比+1.0%とかなりしっかり。
自動車を除くコアも+0.7%と強め予想です。

□
自動車に関しては、3月の新車販売台数が
主要6社中6位のホンダを除く5社で前年比割れと
かなり厳しい数字が示されていますが、
同じく厳しかった2月に比べると販売台数自体は伸びていることもあり
全体を支える可能性が意識されての総合の高数字につながっている様子。

もっとも、小売売上高ベースでは2月は前月比+0.7%とかなり強めだったこともあり
(小売売上高の自動車部門は部品販売なども含み、新車販売とは計測範囲が違います)
期待ほどの強さは出てこない可能性があります。
天候が回復している3月は2月分がかなり弱かった建設資材が回復すると期待されており、
こちらはかなりの好材料。
また、3月はガソリン価格が大きく上昇
(EIA調査全米全種平均で2月の1ガロンあたり2.393ドルから3月は2.594ドルへ)

米国のほとんどの地域が車社会であり、ガソリンは生活必需品で
ガソリン価格の変化は販売量の変化にそれほど結びつかないこともあり
ガソリン価格上昇は全体の販売増にまともにつながるため
こちらも大きな上昇材料となりそうです。

□
そのほかの項目での注目は、
前回は伸びが一気に鈍化(1月の+5.2%から2月は+0.5%)した
スポーツ、書籍、趣味用品の部門。
家計に余裕がないとこの項目は伸びないので、
この部門が回復してくると、市場に好印象を与えそうです。

総じて予想通りの強めの数字、もしくはそれ以上の数字が出てくる可能性は十分にありそう。

この場合ドル円やクロス円には買い材料として意識されそうです。